三笠宮崇仁（みかさのみや たかひと）　皇族、史学者。大正四年十一月二日東京生れ（一九一五）。　大正天皇の第四皇子、母は貞明皇后。幼稱澄宮（すみのみや）。学習院中等科から陸軍士官学校、陸軍騎兵学校を経て陸軍大学校卒。昭和十年三笠宮創立。十八年中國派遣軍参謀、翌年大本營参謀、少佐で終戦。二十二年東京大学文学部史学科で西洋史を学び、古代オリエント史の研究に入る。二十年以降東京女子大学、青山学院大学各講師。また、日本オリエント学會會長などを務めた。雅號若杉。

著譯書『隨筆寄席』（合著、昭和二十九年二月五日日本出版協同株式会社）、ナイネガン著『古代文化の光（ヘブライ＝クリスト宗教の考古学的背景』（赤司道雄中澤治樹共譯、昭和二十年三月二十日岩波書店）、『現代寫生文集』（三笠宮若杉名、合著・虚子編、昭和二十年八月二十日角川書店）、『日本のあけぼの―建國と紀元をめぐって』（編、昭和二十四年二月五日光文社「カッパ・ブックス」）、シャック・ナイネガン著『聖書年代学』（訳、昭和四十二年五月二十五日岩波書店）、『ここに歴史はじまる』（昭和四十二年八月二十日文藝春秋「大世界史」）、シャック・ナイネガン著『考古学から見た古代オリエント史』（訳、昭和五十八年十二月二十一日岩波書店）、『古代オリエント史と私』（昭和五十九年六月九日学生社）、『古代エジプトの神々―その誕生と発展』（昭和六十二年七月二十日日本放送出版協会）等。

文獻：野依秀市著『三笠宮は皇室を離脱せよ』（昭和二十五年七月一日

指紋登録（新規）済